

編集後記

医療関係職種はプロフェッションのもつ固有の機能としての autonomy として、自らの専門的知識および技術の水準をつねに向上することが自らに課せられている。

日本理学療法士協会倫理規定は「理学療法士は患者の医療、福祉に寄与するために、常に高水準の専門的知識と技術の習得、維持に努め、これを実践に生かす」と定めている。

本誌特集として卒後教育(含新人教育)をテーマに、それぞれどのように取り組んでいるのかについて現状報告を中心にして執筆していただいた。

新人教育に対する病院の取り組みについて、横浜市立大学病院、中通りハビリテーション病院において、それぞれの特徴ある院内新人教育の実態を報告いただいた。中通りハビリテーション病院では、医療における理念教育を重要視されている。横浜市立大学病院は、県内の実務研究会とのかかわりの中で新人教育を行っているという報告がされた。

職能団体の下部組織として県士会のレベルの研修の取り組みについて、兵庫県士会、大阪府士会、福岡県士会の研修活動について、それぞれ報告をいただいた。それぞれ三士会は問題点を指摘され、その問題解決のためにはどうすればよいか提

案をしている士会もあり、傾聴すべきものがある。

いずれも長期展望に立ってシステム作りを進めることの重要性が指摘されている。

しかしながら、理学療法士の自らの自覚に基づいた向上、探求心に裏づけされた動機づけがもっともたいせつである。福岡県士会には、自発的な勉強グループが八つもあり、たいへんに心強いものを感じた。

最後に職能団体、学術団体である協会の卒後教育の取り組みと、その今後の展望について、紀伊氏に執筆いただいた。欧米の事情の紹介を入れながら、広い視野に立って書かれており、示唆に富む内容となった。

理学療法作業療法士養成施設等教員長期講習会について、受講者を対象にしたアンケート調査を中心に黒川氏にまとめていただいた。15回と回数を重ねた同講習会も一つの転機にきていると認識されていると思う。

年号が変わった平成元年に本誌が『理学療法ジャーナル』として装いを新たに再出発したことの意義をかみしめて、本誌のいっそうの充実を期待し、読者の期待に応えなければならない責任を感じる次第である。(松村 秩)

理学療法ジャーナル

(第23巻 第3号)

1989年3月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,350円(配送料60円)

〔年ぎめ予約購読料 15,360円〕
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京7-96693番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1989, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

●編集顧問●

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短期大学
学長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリテ
ーションセンター総長

横 山 巖
七沢リハビリテーション
病院脳血管センター院長
(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

安 藤 徳 彦
神奈川県リハビリテーション
病院

上 田 敏
東京大学リハビリテ
ーション部

鶴 見 隆 正
高知医科大学附属病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短期大学部

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
東京都立医療技術短期大学

吉 尾 雅 春
協和会病院

●編集同人●

伊 藤 日出男

今 川 忠 男

宇都宮 初 男

大喜多 潤

大 田 近 雄

大 峯 三 郎

金 子 誠 喜

菊 地 延 子

木 山 喬 博

工 藤 俊 輔

佐々木 伸 一

高 田 京 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

武 富 由 雄

寺 山 久美子

富 岡 詔 子

橋 元 隆

半 田 健 壽

藤 沢 しげ子

前 田 哲 男

牧 田 光 代

松 沢 博

丸 山 仁 司

宮 本 省 三

山 下 隆 昭

米 田 睦 男